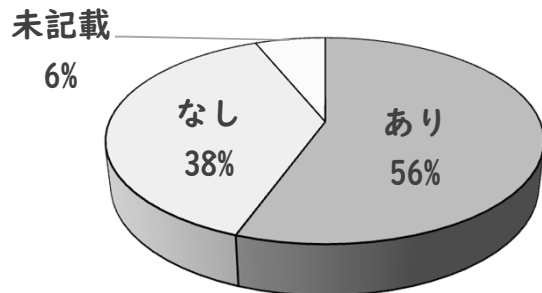


①利用者・家族や周囲の支援者と災害発生時の避難について話し合っていることはありますか？

あり	45
なし	31
未記載	5



【利用者に対して】

- ・避難経路・避難場所・避難手段の確認（17）（高齢者ひとり暮らしを中心に、災害の種別を考慮 等）
 避難場所について：指定避難場所、福祉事務所、デイサービス、地区センター等の場所の確認
 確認方法について：利用開始時に確認、利用者・家族と話し合いながら記入、理解できる人にはシュミレーションをしてもらう、連絡先を本人の目につく場所に貼っている
- ・緊急連絡先・連絡方法の確認（15）（優先順位、緊急通報装置か電話使用か、携帯のワンタッチ機能を使用して、主治医に連絡 等）
- ・避難時の持ち出し品の確認・準備（9）（持ち出し品をリュックに入れておく、持ち出す薬の確認 等）
- ・避難行動要支援者支援制度の紹介・登録・登録確認（7）（高齢者ひとり・二人暮らし、車いす使用者等）
- ・避難支援者の確認（3）（高齢者ひとり・二人暮らしを中心に、家族か近所の人か 等）
- ・避難指示、ハザードマップの確認（2）

（その他）

＜避難支援者について＞

- ・家族に協力者がいない場合の避難について、近隣等を交えた話し合いは実施できているが、家族に協力者があっても災害により対応できない場合が想定されることの話し合いはできていない。
- ・山間部独居の家族に災害発生時の避難について避難支援等関係者に情報提供するようにすすめたがその必要性を感じていなかった。こちらの説明不足もあったと思われる。山間部であるが富山県一の安全な場所で災害にあわないと言われた。
- ・幹線道路から曲がりくねった坂道を上がった高台の家で以前がけくずれがあった。再度発生した場合は、区長や消防の助けが必要と話し合う。

＜避難手段について＞

- ・台風などある程度予測できる災害については前もって支援可能な家族と支援方法を確認している。地震や津波などの災害発生時はハザードマップを確認し、被害状況に応じて自宅待機、その場合の備蓄などの確認を話し合ったことがある。
- ・家族と同居しておられる方は地域の方と協力して避難するよう、ケアハウスなどに入居しておられる方は施設の指示に従うよう助言している。独居の方は民生委員さんに声をかけてくださるようお願いしている。
- ・サ高住に入居されている方は災害が起こる前にできるだけ早く自宅へ連れて帰っていただき、家族とともに避難していただけるようお願いしている。寝たきり状態の方、家族が遠方の方は施設職員で避難対応をお願いしている。地域の方の協力もお願いしている。在宅の方についての避難対策はまだ話し合えていない。
- ・避難時の移動手段について、日頃は何とか歩行できるが災害時の足場の悪い中、避難先まで移動できるのか。車椅子等が必要でも、自宅用は備えがないためどうしたらよいか。
- ・車いすの方なのでどういうふうに移動すればいいか
- ・足が不自由なので、災害があっても家にいるしかないなど訪問時に話題として話す程度
- ・普段は徒歩移動であるが緊急時は徒歩では避難できない
- ・地域の河川が増水し避難が必要になった時の想定で、避難所までの移動は難しいため家族が背負って2階へ避難する方法を選択された。

<避難先について>

- ・校区の小学校ではなく近隣の福祉避難施設に避難していいのか家族より相談があり、避難先について話し合った。
- ・人工透析の通院に介護タクシーを利用しているが、使えない状況になったとき透析が受けられないと命にかかわる。入院はできないのか。
- ・校下の小学校等が指定避難所になっているのだろうが、身体状況からみてどこにつれていけば良いかわからない。以前に市から町内で支援してほしいかどうかの案内がきていたが、アンケートの結果どうなったのかもわからないとの声あり。
- ・要介護5の方は福祉避難所への避難は可能か、一般の避難所で生活できるかなど、防災対策課に電話して確認する必要がある。
- ・避難先について本人より、指定避難先よりも近くの高い建物があるところに避難しても良いかと質問を受けたことがある。
- ・家族と避難先での介護をどうすればよいか話し合ったことがある
- ・災害時、地域の小学校が避難場所になっているが、日中独居のためそこまで行くことができない。行くことができてもトイレやベッドがないと困るので、福祉施設など車椅子状態でも環境の整った場所に避難したいが、受け入れてもらえるか今のところ不明のため心配あり。
- ・家族に確認することが多いが、今まで富山では大きな災害もなかった。避難場所よりも自宅の方が安全な立地と言われることが多い。東日本大震災の時は避難所マップを広げて話し合った。

<避難全般について>

- ・災害の種類によって対応が違うため回覧板や広報で確認しておいてほしいと注意喚起した
- ・自宅が土砂すべり地帯に指定されており、大雨が降った際の避難については話し合っている

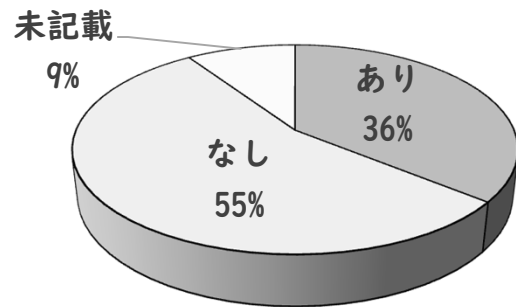
【事業所として】

- ・避難時のSOS手段として、民生委員へ車いす・独居・高齢者世帯など手助けが必要な方の情報を伝えている。
- ・避難先について、ケアマネ自身がどこに避難するべきか答えられない。事務所のエリア外はもっと把握できていない。
- ・BCP策定にあたりこれからと考えている。事業所としては、独居の方や身寄りがない方から話し合っている。避難行動への関心の高まりは、住民・利用者及びその家族が我が事として主体的に取り組んではじめて成り立つもの。支援者側は啓蒙活動こそすれ、個別に働きかけるのは、逆に支援者がいざとなったら何とかしてくれるだろうという意識にもなりかねないため、住民の主体性を促す活動が大切ではないかと考える。
- ・災害時に備え、利用者と日頃から連絡をとれる関係づくりに努めている
- ・消防訓練の際の内容を聞き、指摘・指導内容も把握・改善できるよう話し合っている
- ・包括主催の研修会にて、災害時の備えや避難先、方法等確認し、地域の関係者とも意見交換を行った。
- ・地区の自治会長や近隣住民へ避難時の協力を依頼し、避難経路と避難場所を共有している
- ・自治会から声掛けあり、自治会長と話し合った。地域の自主防災組織につないだ。
- ・家族間で話し合ったり、備えなどはしていないが、地域における避難支援の話し合いに参加したことがある。
- ・町内の取り組みで独居の方等優先的に安否確認が必要な人のマップ登録をしている

②医療機器使用の利用者と、災害発生時の備えについて話し合っていることはありますか？

医療機器使用の利用者がいる53事業所の内訳

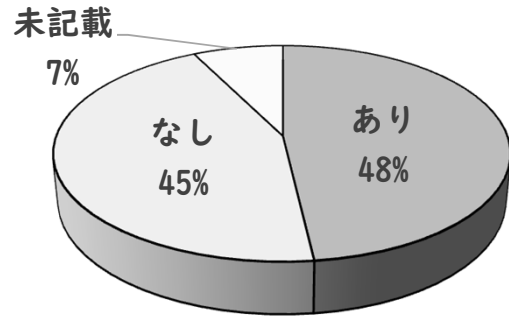
あり	19
なし	29
未記載	5



- ・携帯用酸素ボンベ（7）：本数・ストックの確認（事業所に定期的に納入を依頼、業者との連絡方法の確認、玄関に置いておく 等）
 - ・被災時に医療機関（主治医・訪問看護）、医療機器業者、北電に連絡することを確認（4）（連絡先を見えるところに貼っておく 等）
 - ・主治医・訪問看護師等の関係者との話し合い（3）（サービス担当者会議時に停電時の電源の確保や災害時の対応について、受け入れ可能な入院先について 等）
 - ・人工呼吸器（3）：内臓バッテリー、外部バッテリー、発電機の確認
 - ・吸痰器（3）：停電時でも使える足踏み式や手動等の代替品の検討
 - ・エアーマット：停電時の対応について確認
 - ・非常用電源の確保・準備（2）
 - ・避難時の持ち出し品の確認（2）（リストの作成 等）
- （その他）**
- ・栄養剤のストック
 - ・避難時の移動手段の確認（利用者・家族と話し合いながら記入）
 - ・避難行動要支援者支援制度の登録（担当者会議で検討して 等）
 - ・主治医の指示を仰ぎ対応する。具体的な内容までは決まっていない。
 - ・災害時でも訪問看護や訪問診療の対応が受けられるか。職員自身も被災していた場合、どこまで対応ができるか分からない。
 - ・人工呼吸器使用の方で、昨年住んでいる村の一部だけ電柱のカラスの巣による感電で停電したことがあり、予行練習をした。
 - ・県営住宅3階なので本人は避難しないで建物に残るほうが安全と思っており、携帯用の酸素で数日は対応できると考えている。
 - ・血液透析の方は総合病院であるため、自家発電があると聞いている。
 - ・BCP策定にあたりこれからと考えている

③災害発生時の備えとして、取り組んでいることはありますか？

あり	39
なし	36
未記載	6



【利用者に対して】

- ・避難行動要支援者支援制度の登録（５）
 - ・薬・薬情報の準備（４）（内服薬の置き場所を決めておくよう伝える 等）
 - ・避難場所の確認（３）（ケアプラン第１表に指定避難場所を記入 等）
- （その他）**
- ・避難支援プラン個別計画の申請
 - ・緊急連絡先の確認
 - ・避難場所や連絡方法を家族で決めていただくよう依頼。車が使えない高齢者に日頃から散歩がてら歩いて避難場所までの時間確認を依頼。
 - ・防災グッズの準備
 - ・災害時の持ち出し品の確認
 - ・備蓄品の準備（特に独居の人はケアマネが意識して声かけをしている）
 - ・車いすの置き場所を確認（ひとり暮らし、高齢者２人暮らしで車いす利用の場合）
 - ・通路確保のため玄関前にもものを置かないよう指導
 - ・理解できる方に災害伝言ダイヤルの操作を説明
 - ・浸水や土砂災害の危険区域かどうかを訪問時に確認している

【事業所として】

- ・利用者の緊急時連絡先の把握・リスト作成（７）
 - ・避難・防災訓練の実施（防災・防火、水害、地震）（５）
 - ・避難場所（指定避難所、指定緊急避難場所等）の把握（４）
 - ・災害時の備蓄（食料・水・排泄用品）（４）
 - ・利用者の緊急避難先名簿作成（４）（ひとり暮らし、高齢者２人暮らし）
 - ・職員の緊急連絡体制の整備（３）（職員連絡網の作成、グループLINE）
 - ・緊急時持ち出し用ファイルの作成・更新（３）（基本情報のまとめ、事業所全体として 等）
 - ・ハザードマップの把握（３）
 - ・事業所BCP策定（２）
- （その他）**
- ・利用者の緊急時持ち出し品リストの作成
 - ・利用者名簿の更新
 - ・帳票・書類等の電子化
 - ・法人内の居宅にて情報を共有
 - ・災害バックのセットを準備
 - ・搬送用車椅子２台常備
 - ・事業所内で地域マップの作成

- ・災害アセスメントが行えるように用紙を作成予定
- ・災害時の対応などマニュアル作成
- ・母体である病院のマニュアルに従って行動する
- ・地震に備えて、地震時の行動について確認
- ・要支援者の情報を本人・家族の了解のもと、民生委員・総代さんに伝える
- ・ご家族との連携
- ・災害発生時に病院と速やかに連携がとれるように普段から病院と連携をはかっている
- ・包括センター主催の研修会に参加するなど、関係機関との連携に努めている
- ・認知症で独居の利用者の災害時の対応についても考えないといけないと思う。CVポート、ストマ、インスリン注射など他にも医療処置が必要な方も災害時の備えについて今まで特に考えてこなかった。医療機関、薬局もどこまで稼働できるのか。物品もぎりぎりの数よりは多めにもらえたら安心か。
- ・災害時のケアマネとしての対応について研修を予定している
- ・防災士の資格を取得し防災についての学びを継続中
- ・東日本大震災の際にストーマ患者のパウチが不足し困ったとの話を業者さんから聞いているため、担当者会議の際に、必要な備品を提案しあい、業者さんも介入のもと緊急時用に揃えている。
- ・酸素業者は定期的に点検し、使用方法の確認をし、携帯用をいつでも使用できるようにしている
- ・施設や事業所としての取り組みは順次行っているところである。それが一人一人の利用者の対応までには時間がかかりそうである。